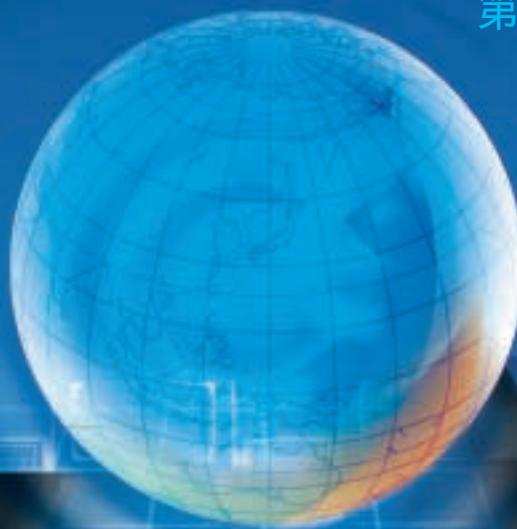




第98期中間事業報告書

(平成13年4月1日から平成13年9月30日まで)



I'm
Imaging.

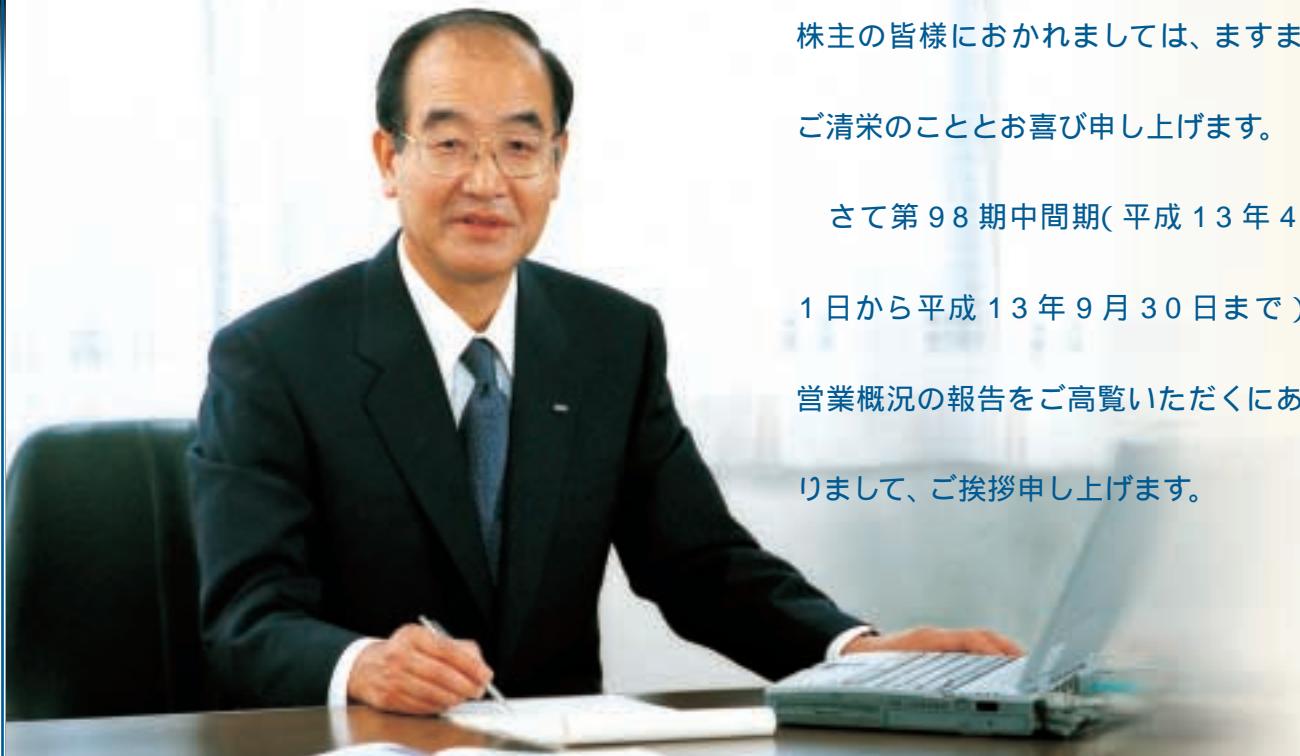
Konica

株主の皆様へ

目 次

株主の皆様へ.....	2 ~ 3
営業の概況.....	4 ~ 8
連結財務諸表.....	9 ~ 10
個別財務諸表.....	11 ~ 12
ブランドシリーズ	
広告の展開.....	13 ~ 14
トピックス.....	15 ~ 16
株式の状況、役員.....	17
会社概況・株主メモ、 ご優待のご案内.....	18

株主の皆様へ



当社は、「感動創造」を経営の理念とし「イメージングソリューションカンパニー」という企業像を目指します。その実現のためには、「感動創造」意識をより一層高めて、お客様のニーズを先取りし感動していただけるソリューションを提供していきたいと考えております。平成12年

株主の皆様におかれましては、ますます
ご清栄のこととお喜び申し上げます。
さて第98期中間期(平成13年4月
1日から平成13年9月30日まで)の
営業概況の報告をご高覧いただくにあた
りまして、ご挨拶申し上げます。

1月に事業ポートフォリオの観点でミッションを明確にし、
1)デジタル化・ネットワーク化のさらなる推進
2)選択と集中・社内外の提携の積極的な推進
の実現を図るためにキーワードを SPEED(スピード)
ALLIANCE(提携) NETWORK(ネットワーク)とする

中期経営計画「SAN プラン 2003」を策定しました。この計画を基本として今年もローリングを行い、現在「SAN プラン 2004」へとレベルアップして、この中期経営計画の着実な実行に取り組んでおります。

当期はこの中期経営計画遂行のために以下の課題に取り組み、計画の達成を目指します。

- 1) アナログからデジタル・ネットワークへの事業転換を強力に推進するとともに「選択と集中 / 社内外提携」にも積極的に取り組んでいく。
- 2) 全社リソースの再配分と重点投資を資金とともに、人材についても強力に実行する。
- 3) 社内カンパニー制の実効を上げ、平成 15 年 4 月の分社化・持株会社化に向けて体制整備を進める。
- 4) 顧客満足度向上の視点に立った、「品質向上」を開発、生産、販売一体で推進する。
- 5) 地球環境への取り組みを「環境会計」の実践を通して徹底する。

デジタル技術の急進、IT 革命にともない、業種間の垣根がなくなるとともに、グローバルでの競争が激化して

おりますが、21世紀の国際的優良企業を目指し、国際市場での企業価値を高め、株主満足、顧客満足、従業員満足を実現することを経営の目標としております。

株主の皆様におかれましては、どうぞご理解をいただき、尚一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成 13 年 12 月

代表取締役社長
岩居文雄

営業の概況

当中間期の連結の営業概況

米国における景気減速の影響が欧州、アジアにも広がり、世界的な景気後退が進み、先行きの不透明感が強まるなど一層厳しさを増しました。日本の景気も本格的な調整局面に入り、個人消費の冷え込みも依然として続いております。当社の関連する市場では需要低迷と価格競争激化の影響が顕著となり、なかでもIT関連部品の市況は急速に悪化しました。

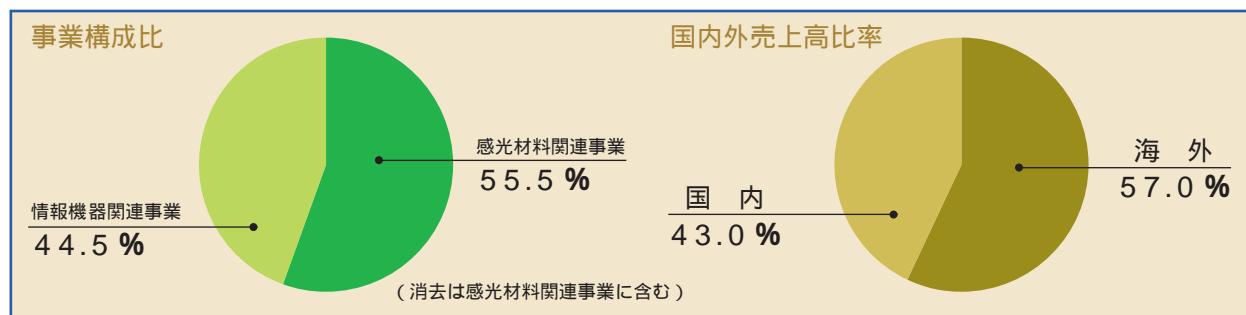
当中間期の米ドル及びユーロの平均換算レートは、それぞれ121.66円、107.69円と前年同期に比べ米ドル13.3%、ユーロは5.6%の円安となりましたが、連結売上高では2,671億円(前年同期比1.5%減)と対前年同期39億円の減収となりました。

部門別に見ますと感光材料関連事業が1,498億円(前年同期比2.6%減)と対前年同期40億円の減収と

なり、情報機器関連事業は1,187億円(前年同期比0.3%減)と対前年同期4億円の減収となりました。

合理化によるコストダウンや販売費及び一般管理費の削減を推進しましたが、新規連結会社の増加及び円安による為替換算上の費用増により営業利益は138億円と対前年同期45億円の減益(前年同期比24.8%減)、経常利益は、有利子負債圧縮とともに支払利息等の営業外費用が減少し93億円と対前年同期7億円の減益(前年同期比7.8%減)となりました。

当中間期は、前期に発生しました退職給付会計にともなう特別損失が大幅に減少し、中間純利益は35億円と対前年同期28億円の増益(前年同期比407.3%増)となりました。また、総資産は5,253億円と対前期71億円増加し、株主資本比率は31.2%となりました。



部門別状況

感光材料関連事業

コンシューマーイメージングカンパニー

カラーフィルムや、印画紙、ミニラボを扱うコンシューマーイメージングカンパニーでは、デジタルカメラの著しい伸長、インターネットの普及によりデジタル化へのニーズが多様化してきました。当中間期には「コニカデジタルミニラボシステム QD-21 SUPER」及び店頭での簡易デジタルフォトサービスを可能とする「コニカデジタルプロッショ」を発売しました。さらに将来市場の拡大が見込まれるフォトネットプリントティング事業への足がかりとしてコニカオンラインラボを開設し、サービスを開始しました。同時に「コニカフォトエクスプレス店」「コニカデジタルフォトエクスプレス店」の加盟店の拡大を図り、お客様の多様なニーズにお応えできる体制を整備しました。

フィルムや印画紙のビジネスでは、国内の総需要は前年を下回り、競争激化のなかで、市場価格の下落が一層進行しました。当社では量販店経由での販売を拡大し、

フィルムの数量はほぼ前年と同じレベルを維持しましたが、売上高は減少しました。海外では、当社の主力市場であるアジアに、引き続き経営資源を重点配分し、インド、中国、ベトナム、ロシアで、フィルムや印画紙の裁断、包装等の現地加工を推進するとともに、地域に密着したマーケティングを強化してきました。当中間期もアジアでは堅調に推移し、特にそのなかでも大型市場である中国、インドでの販売は順調でした。競争の激化による価格下落が各地で続き、全体では売上高が減少しました。

メディカル&グラフィックカンパニー

メディカルイメージング分野において、国内では大病院からクリニックに至るまでデジタル化の流れが急速に広がるとともに競争も激化しております。当社では、投資の重点をいち早くデジタル関連へとシフトしてまいりました。当中間期は、高画質、高速処理に加え、ハイブリッド処理可能な高精細デジタル画像撮影装置「コニカダイレクトディジタイザ REGIUS MODEL 350 / 550」を発売いたしました。

このようにデジタル化の流れに対応した商品、質の高いソリューションをご提供することで、売上高は増加しております。また、海外の売上高についても、同様に増加しております。

グラフィックイメージング分野において、国内では、景気の低迷やデジタル化の進行により、厳しい状況が続いておりますが、お客様の立場に立ったソリューション提供を実現すべく新たに販売会社「コニカグラフィックスシステムズ株式会社」を設立し、積極的展開を図ってまいります。

IJタ事業推進センター

中期経営計画のなかで、インクジェット事業を戦略事業の一つとして位置付け、ネットワーク時代の高画質の画像出力手段として、その技術を確立して大型の新規事業となるよう育成中です。高速・高画質のヘッドとインク、そして既に市場で好評を得ておりますインクジェット用光沢紙の三位一体の開発を行っております。インクジェット用ペーパーの販売は順調に伸びており、ヘッド

とインクのいわゆるコンポーネントビジネスの拡大を目指しております。

電子材料事業部

電子材料事業も戦略事業の一つで液晶偏光板用TAC（トリアセチルセルロース アイルムなどが主な製品です。当中間期は、携帯電話やPCの低迷により液晶市場は、数量、売上高ともに大幅にダウンする厳しい市況でした。当社も新製品の投入により市場の拡大に努めましたが、数量、売上高とも前年同期を下回りました。しかしながら、中期的には大きく成長が見込める市場であり、当社が優位性をもつ、薄膜、塗布などのコア技術を活かした高付加価値な機能性素材の開発を進めてまいります。

情報機器関連事業

オフィスドキュメントカンパニー

オフィスドキュメントカンパニーでは、デジタル複合機とその消耗品が主な製品ですが、これら複合機はネットワークを通じた強力な情報の入出力機能を有しております。文書管理ソフトなど多数のアプリケーションソフトをともなった総合システムとしてお客様のニーズに合わせたソリューションビジネスを開発、生産、販売が一体となり強化しております。

中高速機セグメントの強化という基本方針に従い、このセグメントでは順調に数量を伸ばし、売上高も増加しました。当中間期には新製品として独自開発の重合法トナーを搭載し、世界最高レベルの画質を実現した「Konica Sitios 7165（毎分 65 枚機）」を投入しました。高速機でありながら、大幅なコストダウンを達成すると同時に、新しい設計システムの導入によりネットワークへの対応を可能とするコントローラーと本体との同時発売を実現しました。デジタル比率は売上高で 8 割を超えました。

オプテクノロジーカンパニー

オプテクノロジーカンパニーは、当社が極めて高い優位性を持つ光学技術をコア技術とする重要な戦略事業で、光ディスク用非球面プラスチックレンズや、VTR・デジタルカメラ用のレンズユニット、MO ドライブなどを手掛けております。

DVD 用の光ピックアップレンズは比較的堅調でしたが、PC 及びその周辺機器用の分野では昨年暮れから今日に至るまで調整局面が続いており、数量、売上高ともに対前年同期では減少しました。

CDI事業部

フィルムカメラの市場は昨年に続きマイナス成長となり、特に APS カメラの減少が顕著となりました。当社においても、数量、売上高ともに、減少いたしましたが、「コニカ Revio II」「コニカ Lexio 70」が平成 13 年度のグッドデザイン賞を受賞し市場での好評を得ました。デジタルカメラにつきましては、従来の OEM 販売に加え、当中間期はコニカブランドの品揃えも充実させました。

数量は若干増加しましたが、商品構成の変化と価格ダウンの影響で、売上高は減少しました。

通期の見通し

通期の見通しとしましては、世界主要地域の景気の急速な後退が進むなかで今年9月の米国における同時多発テロ事件以降、世界経済の見通しは一層不透明なものとなりました。また、デジタル技術の急進、IT革命等によって、業種を超えたグローバルでの競争が激化し、当社を取り巻く環境は急速に変化しておりますが、このような困難な環境に対応するために「SANプラン2004」

で策定した全社方針をグループ全体で着実に実行し計画の達成を目指すとともに、国内外にコニカの存在を示し、感動を創造する企業を引き続き目指してまいります。

連結・単体中間売上高(単位:百万円)



連結・単体中間経常利益(単位:百万円)



連結・単体中間純利益(単位:百万円)



注：連結の開示は、99年度より行っております。

中間連結貸借対照表

(単位:百万円、未満切捨)

勘定科目	当中間期	前期	増減	増減率(%)
現金及び預金	50,940	55,492	4,552	8.2
受取手形及び売掛金	134,056	140,329	6,273	4.5
たな卸資産	108,244	102,260	5,983	5.9
その他の	23,627	19,806	3,820	19.3
流动資産計	316,868	317,890	1,022	0.3
有形固定資産	145,509	141,870	3,639	2.6
投資その他	62,957	58,421	4,536	7.8
固定資産計	208,467	200,291	8,175	4.1
資産合計	525,336	518,181	7,154	1.4
有利子負債	180,119	181,911	1,792	1.0
支払手形及び買掛金	80,307	79,566	741	0.9
その他の	100,505	95,757	4,748	5.0
負債合計	360,932	357,234	3,697	1.0
少数株主持分	715	687	28	4.1
資本合計	163,687	160,259	3,427	2.1
負債・少数株主持分及び資本合計	525,336	518,181	7,154	1.4
株主資本比率	31.2%	30.9%	0.3%	—
(前年中間期)				
1株当たりの中間純利益	9円92銭	1円96銭	7円96銭	—

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円、未満切捨)

	当中間期	前年中間期
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	18,775	24,340
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	16,203	20
I + II フリー・キャッシュ・フロー	2,572	24,360
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	8,186	16,968
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	460	205
V 現金及び現金同等物の増加額	5,153	7,187
VI 現金及び現金同等物の期首残高	56,573	55,022
VII 新規連結による現金及び現金同等物の増加額	602	429
VIII 現金及び現金同等物の期末残高	52,021	62,639

中間連結損益計算書

(単位:百万円、未満切捨)

	当中間期	前年中間期	増 減	増減率(%)
売 上 高	267,151	271,086	3,935	1.5
	感光材料関連事業	149,842	153,870	4,027
	情報機器関連事業	118,764	119,173	409
	消去又は全社	1,455	1,957	501
売上原価	151,821	156,014	4,192	2.7
売上総利益 (率)	115,329 43.2%	115,072 42.4%	257 0.8%	0.2 —
販売費及び一般管理費	101,462	96,623	4,839	5.0
営業利益 (率)	13,867 5.2%	18,448 6.8%	4,581 1.6%	24.8 —
	感光材料関連事業	7,890	10,177	2,286
	情報機器関連事業	10,281	13,087	2,806
	消去又は全社	4,304	4,816	511
営業外損益	4,492	8,282	3,790	—
経常利益 (率)	9,375 3.5%	10,165 3.7%	790 0.2%	7.8 —
特別損益	1,985	8,078	6,092	—
税金等調整前中間純利益	7,389	2,087	5,302	254.0
法人税等	3,800	1,385	2,415	174.4
少數株主利益	42	2	39	—
中間純利益 (率)	3,546 1.3%	699 0.3%	2,847 1.0%	407.3 —

所在地別セグメント情報

(単位:百万円、未満切捨)

	売上高			営業利益		
	当中間期	前年中間期	増 減	当中間期	前年中間期	増 減
国 内	213,927	217,929	4,002	16,988	19,347	2,358
北 米	67,787	63,950	3,837	893	2,880	1,987
欧 州	35,707	34,359	1,347	437	541	979
ア ジ ア	25,559	23,458	2,101	757	851	93
消 去 又 は 全 社	75,830	68,611	7,219	5,210	4,089	1,120
合 計	267,151	271,086	3,935	13,867	18,448	4,581

海外売上高

(単位:百万円、未満切捨)

	当中間期	前年中間期	増 減
北 米	69,441	68,977	463
欧 州	38,899	37,629	1,269
ア ジ ア	43,940	39,185	4,754
合 計	152,280	145,792	6,488
海外売上高の割合	57.0%	53.8%	3.2%

中間個別貸借対照表

(平成13年9月30日現在)

(単位:百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産	191,633	流動負債	134,246
現金及び預金	17,387	支払手形	13,727
受取手形	11,231	買掛金	45,222
売掛金	85,570	短期借入金	13,760
有価証券	1,081	長期借入金(一年以内返済)	3,518
自己株式	1	社債(一年以内償還)	15,000
たな卸資産	54,363	未払金	6,686
その他	22,360	未払費用	27,826
貸倒引当金	362	未払法人税等	5,545
固定資産	208,859	製品保証等引当金	1,195
有形固定資産	80,709	事業再編・整理損失引当金	988
建物	24,832	その他	775
機械及び装置	28,608	固定負債	67,396
その他	27,268	社債	40,000
無形固定資産	4,387	長期借入金	4,642
投資等	123,762	退職給付引当金	22,513
投資有価証券	14,382	その他	241
その他	115,473	負債の部合計	201,642
貸倒引当金	6,094		
資産の部合計	400,493	資本の部	
		資本金	37,519
		法定準備金	87,102
		資本準備金	79,342
		利益準備金	7,760
		剰余金	73,838
		任意積立金	65,888
		中間未分利益	7,949
		(うち中期純利益)	(4,386)
		評価差額金	390
		その他有価証券評価差額金	390
		資本の部合計	198,850
		負債・資本の部合計	400,493

- 注: 1. 有形固定資産の減価償却累計額 179,860 百万円
 2. 保証債務残高 54,209 百万円
 (うち保証予約等) (35,226 百万円)

中間個別損益計算書

(平成13年4月1日から平成13年9月30日まで)

(単位:百万円)

摘要	金額
経常損益の部	
営業損益の部	
営業収益	
売上高	168,222
営業費用	
売上原価	103,094
販売費及び一般管理費	55,456
営業利益	9,671
営業外損益の部	
営業外収益	3,382
受取利息及び配当金	587
雑収入	2,795
営業外費用	4,370
支払利息	894
雑支出	3,475
経常利益	8,682
特別損益の部	
特別利益	1
特別損失	1,349
税引前中間純利益	7,335
法人税、住民税及び事業税	5,566
法人税等調整額	2,617
中間純利益	4,386
前期繰越利益	3,563
中間未処分利益	7,949

ブランドシリーズ広告の展開



I'm Imaging. Konica

コニカでは、この秋から“ I'm Imaging. Konica ”をスローガンに、これまであまり知られていなかったコニカの最先端技術を紹介する企業ブランドシリーズ広告の展開をスタートしています。「コニカって、こんなこともやっている企業なんだ」という点を取り上げ、コニカの新しいイメージを感じとてもらうことが目的です。

一般的にコニカは、コンパクトカメラや撮りっ切りコニカで代表される、気軽に使え、親しみやすい商品の会社というイメージが強いようです。しかし、実際、単独の売上げでは、複写機やプリンターのオフィスドキュメントが一番大きく、また、収益面では、DVDやCDなどの光ディスク用非球面プラスチックレンズや、パソコンなどの液晶ディスプレー用TAC(トリアセチルセルロース)フィルムなども貢献しています。

今回のブランドシリーズ広告では、光をイメージしてCG合成したキャラクターが登場し、このようなあまり知られていないコニカ本来の姿を紹介してまいります。



光ピックアップレンズ

CD や DVD プレーヤーの心臓部とも言われている光ピックアップレンズ。コニカは、1984 年に世界で初めて CD 用非球面プラスチックレンズの開発に成功して以来、超精密な設計・加工・生産技術により、光ピックアップレンズの量産化・小型化を実現させ、市場において約 70% というトップシェアを維持しています。ますます多様化する光ディスク市場において、コニカは CD-R / RW や DVD 系を中心とした高付加価値分野における新製品開発を推進し、お客様ニーズに応えてまいります。



TAC フィルム

ノートパソコンをはじめ、各種モニター、携帯情報ツール、ゲーム機、カーナビ、テレビなど成長が著しい液晶モニター。その表面を保護しているのが TAC(トリアセチルセルロース)フィルムです。コニカは、長年にわたるフィルム生産技術を活かし、高精度な液晶偏光板用 TAC フィルムを開発・生産しています。液晶偏光板用 TAC フィルムは、従来のフィルムに比べ、はるかに厳しい光学特性・表面平滑性・加工性を要求されますが、コニカはその要件をクリアし、偏光板メーカー各社から品質面で高い評価を得ています。



医療用高精細デジタルイメージングシステム



医療の分野でもデジタル化・ネットワーク化へと市場が大きく変わりつつあります。高画質を要求される医療分野で、コニカの医療用高精細デジタル画像撮影装置「REGIUS」はデジタルの限界を超えた 2018 万画素を実現しました。この高画質とデジタルならではの即時性・画像加工性とが相まって、医療現場に必要不可欠な迅速性と高精度な診断画像を提供しています。



Konica Topics

ネットワーク・ドキュメント・ プロセッサー「NetPro」 第一号機

『Konica Sitios 7165』新発売

コニカは、高速デジタルマシンをネットワーク・ドキュメント・プロセッサー「NetPro」として、その第一号機、重合法トナーを採用した『Konica Sitios 7165』を9月26日より新発売しました。

「NetProシリーズ」は、インターネット、インターネットとコニカのデジタル技術との融合により、ドキュメント・マネージメントを実現。膨大な情報を効率よく管理・活用し、必要な情報を

共有ナレッジ化するなど、オフィス革新を目指し推進できます。

『Konica Sitios 7165』は、ネットワーク対応のための独自技術を網羅した新製品です。高速エンジン搭載による快速アウトプット、コピー機単体をネットワークに融合させるネットワークコピア機能。また、紙文書からスキャニング、電子化したデータをネットワーク経由でPCへ取り込むスキャナ機能。さらに、小粒径で均一な形状を作り出すコニカ独自の重合法トナーを採用することで、より鮮明な文字とより豊かな画像の再現性を可能にしました。



『Konica Sitios 7165』の 環境配慮

『Konica Sitios 7165』は、重合法トナーの採用により、製造プロセスでのCO₂、NO_x排出量を従来の製造法に比べ約40%低減しました。また、使用済みトナーを再利用し、廃棄トナーを一切発生させない「トナーリサイクル」機構を装備、トナーボトルは「リユースボトル」を採用しました。アルミ肉薄定着ローラーの採用をはじめ、優れた技術開発により、エネルギー効率も大幅に低減、グリーン購入法基準にも適合しています。

リサイクル・リユースについては、全国7拠点を経由し、サプライ製品や消耗品を含むメンテナンスの回収をスタートしました。再生工場でトナー容器、消耗部品のリユース・マテリアルリサイクルを行い、再資源化率は92%に達しています。

「コニカ Revio II」と 「コニカ Lexio 70」が グッドデザイン賞に

APS ズームコンパクトカメラ「コニカ Revio II」と 35mm ズームコンパクトカメラ「コニカ Lexio 70」が、(財)日本産業デザイン振興会選定の 2001 年度グッドデザイン賞の商品デザイン部門パーソナルユースでグッドデザイン商品に選定されました。「コニカ Revio II」は、20 代の女性をイメージターゲットとし、手軽さと壊れにくい安全なイメージを表現。一方、「コニカ Lexio 70」は、操作部を少なく、表示部を分かりやすくし、デザインの完成度も高めました。

数々のグッドデザイン賞を背景に、コニカはこれからも夢と感動を創造する商品を提供していきます。



2 生産事業所で ゼロエミッション^(*)達成

コニカグループでは「2010 年度までに温室効果ガス排出量を 90 年度比 6% 削減」という地球温暖化防止対策と「2003 年度までに国内 15 拠点でゼロエミッション達成」という目標を掲げています。ゼロエミッションについては、単に再資源化率の向上・最終処分率の低下だけではなく、経済性を重視した排出物の削減を進めています。この 6 月には、(株)山梨コニカがプラスチック材料の有効利用などにより、次いで 10 月には、(株)コニカ電子が廃プラスチックの分別の徹底などにより、次々とゼロエミッションを達成しました。2001 年度末までには累計 6 拠点の達成を目指しています。

*コニカのゼロエミッションの定義：1998 年度実績対比で再資源化率 90% 以上、最終処分率 5% 以下、廃棄費用削減 90% 以上の条件を満たしていること。



2001 日本女子プロゴルフ 選手権大会 コニカ杯 ~日吉久美子プロが優勝

コニカ杯として特別協賛している「2001 日本女子プロゴルフ選手権大会 コニカ杯」が 9 月 6 日から 9 日まで栃木県・ロペ俱楽部で開催され、日吉久美子プロが優勝しました。難コースにもかかわらず日吉プロは通算 6 アンダーで同大会 2 度目の優勝を果たしました。

この大会は、日本の女子プロゴルフ会にとって最も権威のある大会の一つです。第 1 回の優勝者は日本女子プロゴルフ協会会长の樋口久子氏、コニカ杯になってからの第 1 回目は福嶋晃子プロでした。

株式の状況

会社が発行する株式の総数	800,000,000 株
発行済株式の総数	357,655,368 株
株主数(平成13年9月30日現在)	28,788名
(大株主(平成13年9月30日現在))	

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社	24,813	6.9
株式会社東京三菱銀行	17,657	4.9
株式会社三和銀行	17,657	4.9
朝日生命保険相互会社	16,927	4.7
東洋信託銀行株式会社	15,088	4.2
野村信託銀行株式会社	14,115	3.9
三菱信託銀行株式会社	12,801	3.6
日本生命保険相互会社	11,231	3.1
みずほ信託銀行株式会社	8,652	2.4
中央三井信託銀行株式会社	8,353	2.3

注: 上記の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は、日本トラスティ・サービス信託銀行(株)24,813千株、東洋信託銀行(株)15,453千株、野村信託銀行(株)14,115千株、三菱信託銀行(株)10,220千株、みずほ信託銀行(株)8,652千株、中央三井信託銀行(株)8,353千株であります。

役 員

代表取締役会長	植松富司
代表取締役社長	岩居文雄
常務取締役	小宮衛
常務取締役	小板橋光夫
常務取締役	鈴木繁
取締役相談役	米山高範
取締役	新谷恭將
取締役	神戸勝
常任監査役	久保田英夫
監査役	松本政之
監査役	若原泰之
監査役	加藤一趙
執行役員(常務取締役兼務)	鈴木繁
執行役員	小嶋忠
執行役員	森藤幸男
執行役員	伊藤國雄
執行役員	津野田靖光
執行役員	坂口洋文
執行役員	岩野駿平
執行役員	山口尚
執行役員	岩間秀彬
執行役員	河浦照男
執行役員	齋藤知久
理事	芳西哲
理事	井沢清
理事	中村知明
理事	風間源一郎
理事	桙澤翼
理事	佐田泰業

会社概況・株主メモ

ご優待のご案内

創業 1873年(明治6年)
資本金 37,519百万円(平成13年9月30日現在)
従業員数 4,195人(平成13年9月30日現在)

本社 〒163-0512 東京都新宿区西新宿1-26-2
関西支社 〒542-0086 大阪市中央区西心斎橋1-5-5
札幌支店 〒060-0003 札幌市中央区北三条西1-1-1
東北支店 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡5-12-55
名古屋支店 〒460-0008 名古屋市中区栄2-3-1
中国支店 〒730-0037 広島市中区中町8-6
四国支店 〒760-0025 高松市古新町2-3
九州支店 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-4-4
事業場 東京(日野・八王子)、小田原、神戸、甲府

決算期 每年3月31日
公告掲載新聞 日本経済新聞
名義書換代理人 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-3
東洋信託銀行株式会社
同事務取扱所 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11
東洋信託銀行株式会社証券代行部
TEL:(03)5683-5111
同取次所 東洋信託銀行株式会社全国各支店
(名義書換代理人 東洋信託銀行株式会社は、平成14年
1月15日をもって、商号をUFJ信託銀行株式会社に変更
いたします)
野村證券株式会社全国本支店

当社では、平成10年12月より国内における1,000株以上の個人株主の皆様に、下記のご優待を実施しております。

1. 当社製カレンダーの贈呈

当社の中間決算期(毎年
9月30日)時点の国内にお
ける1,000株以上の個人株
主の皆様が対象となります。



2. 「コニカフォトクラブ」への割引入会

写真をご趣味とされておられるお客様を対象にしたクラブ
です。株主様は、入会金、年会費が割引となります。詳しくは、
コニカプラザ「コニカフォトクラブ」(TEL: 03-3225-5001)
にお問い合わせください。

お知らせ

10月1日の改正商法施行に伴い、当社は単元株制度を採用いたしております。

従来どおり、証券取引所における売買は1,000株の整数倍で行われております。また、1,000株未満の株式についても、従来どおり買取請求を受け付けてあります。

単元未満株式の売却(買取請求)に際して、株主の皆様にご負担いただいておりました「買取手数料」は、平成13年11月14日より、無料とさせていただきました。この機会に単元未満株式の売却(買取請求)をご検討くださいますようお願いいたします。

配当金振込指定書用紙の他、当社株式に関する事務手続き用紙(お届けの住所・印鑑・姓名等の変更届、単元未満株式買取請求書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、名義書換代理人にてお電話ならびにインターネットにより24時間承っておりますので、ご利用ください。

受付フリーダイヤル(自動応答): 0120-24-4479(本店証券代行部) 0120-68-4479(大阪支店証券代行部)

インターネットアドレス: <http://www.toyotrustbank.co.jp/>

同じ風景を、時間、天候、四季などタイミングを変えて撮り続ける撮影法です。背景の変化が写真をドラマチックに仕立て上げてくれます。

また、構成が逆になりますが、家族の成長記録にもこの方法をおすすめします。



1. 海面がキラキラと輝く光をポイントにしました。

トップライトのため、無彩色に近い写真になります。

絞り: 11 オート: +2/3補正



2. 広い空が刻一刻とあかね色に染まっていきます。

海面の反射をPLフィルターを使用して調整しました。

絞り: 8 オート: +1/3補正



3. 月とレインボーブリッジです。

写真に透明感を表現するには、海水の温度が下がる2月頃の撮影をおすすめします。

絞り: 11 オート: 補正なし

この小冊子は再生紙に大豆インキで印刷しました。



コニカ株式会社

〒163-0512 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル

総務部 TEL. 03-3349-5241 広報室 TEL. 03-3349-5251

(2001年12月発行) <http://www.konica.co.jp>



古紙配合率100%再生紙を使用しています

